

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2826 号

Circadian Rhythm of Voided Volume, Maximum Flow Rate and Voiding Time Evaluated by Toilet Uroflowmetry in Hospitalized Women with Nocturia

夜間頻尿を呈する入院女性における排尿量、最大尿流率および排尿時間の日内変動のウロフロメトリーによる評価

吉山 あづさ (よしやま あづさ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、夜間頻尿を呈する女性における 1 日の尿量・最大排尿率・排尿時間を 24 時間ウロフロメトリーで測定し、日内変動を評価したものである。また、上記 3 項目の日内変動を 70 歳未満と 70 歳以上の女性で比較した。

【新規性、創造性】 夜間頻尿を呈する患者における尿量・最大排尿率・排尿時間の日内変動は女性に限定しての報告はなく、新規性のある報告である。また 70 歳未満と 70 歳以上の女性を比較することで排尿量の日内変動パターンは加齢によって減弱することを初めて示した。

【方法・研究倫理】 本研究では、泌尿器科疾患で当院に入院した女性患者 58 名 (年齢 68.4 ± 15.2 歳) の排尿 2602 回を評価した。同一性リンク関数を用いた一般化線形混合モデルにより、排尿量・尿流率・排尿時間を 1 時間ごとの平均値として評価した。また、これらの日内変動を 70 歳未満と 70 歳以上の女性で比較した。

【学術的意義】 夜間頻尿は健康状態・QOL (生活の質)・寿命に影響する。女性における排尿状態の日内変動を評価することで夜間頻尿患者の膀胱機能の傾向を評価した。

【考察・今後の発展】 排尿量に関して男性と比較して女性のほうが加齢による膀胱容量低下や夜間頻尿が顕著になるという報告があるが、研究のすべての時点において、70 歳以上の女性は 70 歳未満の女性よりも尿量が少なくなり妥当と考えられた。また、70 歳以上の女性は排尿量の日内変動が減弱する傾向にあった。

夜間頻尿の女性における排尿の日内変動に関する報告はない。本研究は初めて女性における排尿の日内変動を示した有用なデータである。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。